



京都学芸大学 附属桃山中学校 総合竣工式記念

1953年2月
桃山附属学園建設後援会

写真：校舎全景

現在の京都教育大学附属桃山中学校は、1947（昭和22）年4月、京都師範学校女子部附属小学校高等科2年（新制中学校第2学年相当）の1学級を移行する形で、これに新1年生2学級を加え、京都師範学校女子部附属中学校として発足した。ただし、戦後6・3制への移行の過渡期にあたる当時は、主事（校長）も教官も小学校教員が充てられ、校舎も附属小学校内に仮寓するというものであった。さらに同校は、1949年の国立学校設置法施行で京都師範学校が京都学芸大学に昇格するに伴い、師範学校女子部構内から立ち退きを迫られる事態となる。校舎をもたない附属学校には存在の意味がないという文部省の判断もあり、附属中学校は廃校が内定する。

これを憂いたのが、当時の富部要人中学校育友会会長、田原留吉小学校育友会会長であった。全附属桃山学園保護者を糾合して新校舎建設後援会を組織、寄附金を集め、学校の敷地を買収整地して文部省へ寄付することで学校の存続を図った。一家庭あたり2万円の募金だったという。結果、新校舎は桃山福島太夫北町（現在の伏見区桃山福島太夫北町）に建設決定、1951年には第一期工事が竣工し、附属中学校は京都学芸大学附属桃山中学校として再スタートを切る（全校舎落成は1953年）。

今回の逸品は、全校舎落成（総合竣工）を記念する写真帖である。表紙をめくると、校舎建設に尽力した建設後援会役員員の集合写真が目に入る。続いて、校舎全景、廊下、普通教室、校長室、図工室、理科室、試食室、料理室と、新築校舎の写真が並ぶ。記録・記念ということであろう、2期に分けられた校舎建設のそれぞれの起工式、上棟式、また演奏会の写真もある（芦原邦子特演奏会）。最後のページは、後援会名簿である。

ただし、このとき建設された校舎が附属桃山中学校であったのは、わずか6年の間だけだった。京都学芸大学が京都、桃山両分校を統合して伏見区藤森に移転することになった際、同校は再び旧師範学校女子部敷地、すなわち現在の京都教育大学附属桃山中学校が所在する桃山井伊掃部東町に移転することとなったのである（1957年）。明け渡された桃山福島太夫北町の校舎は呉竹養護学校（現・呉竹総合支援学校）として引き継がれた。今回の逸品は、そんなたった6年間だけの校舎の記念帳である。とはいえ、廃校を憂いた保護者たちによって生み出されたその「たった6年間」がなければ、いまの附属桃山中学校はない、そんな決定的な6年間の記念である。

参考文献：加藤次郎『伏見桃山の文化史』1953年

京都学芸大学附属桃山中学校編『十年史』1957年

京都教育大学一〇周年記念誌編集委員会編『京都教育大学百二十年史』2001年

執筆者：神代健彦（教育学科准教授・教育資料館運用担当者）

※附属図書館で展示しています。